

第 34 回(令和 3 年度 第 2 回)黒部市公共交通戦略推進協議会 会議録

開催概要

- 日 時 令和 3 年 10 月 4 日 (月) 14 : 00～
- 場 所 ホテルアクア黒部会議室
- 出席者 協議会委員 17 名

出席者名簿

区分	所属	役職	氏名	出欠等	備考
第 6 条 第 2 項 第 1 号	地域公共交通網形成 計画を作成しようとする市町村	黒部市長	大野 久芳	本人出席	会長
第 6 条 第 2 項 第 2 号	関係する公共交通 事業者等	富山地方鉄道株式会社専務取締役	新庄 一洋	本人出席	
		黒部市タクシー協会会長	神谷 尚機	本人出席	
		あいの風とやま鉄道株式会社総務企画部長	籠浦 克幸	本人出席	
	関係する道路管理者	富山県新川土木センター入善土木事務所長	山田 晃	本人出席	
第 6 条 第 2 項 第 3 号	関係する公安委員会	黒部警察署長	青野 秀夫	本人出席	
	地域公共交通 の利用者 市民ボランティア	黒部市自治振興会連絡協議会監事	漆間 中郎	本人出席	副会長
		黒部市民生委員児童委員協議会長	田村 豊嗣	本人出席	
		特定非営利活動法人黒部まちづくり協議会 ワンコインプロジェクトリーダー	菅野 寛二	本人出席	
		黒部市老人クラブ連合会長	村上 勝悦	本人出席	
		くろべ女性団体連絡協議会長	新村 恵子	本人出席	
	政策支援 アドバイザー	中央大学理工学部都市環境学科教授	原田 昇	欠席	
	その他の当該市町村 が必要と認める者	北陸信越運輸局交通政策部交通企画課長	玉巻 史成	欠席	
		北陸信越運輸局鉄道部計画課長	菅原 幸三	欠席	
		北陸信越運輸局富山運輸支局 首席運輸企画専門官	伊藤 健一	本人出席	
		富山県地方創生局総合交通政策室次長 地域交通・新幹線政策課長	有田 翔伍	総合交通 政策室主査 岩井 克行	
		黒部商工会議所会頭	川端 康夫	本人出席	座長
		一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局 代表理事	川端 康夫	欠席	
Y K K 株式会社 副社長 黒部事業所長		浅野 慎一	黒部事業所 企画推進 グループ長 岡 智和		
富山県交通運輸産業労働組合協議会議長	石橋 剛	事務局長 石田康博			
宇奈月商工振興会	羽柴 進一	本人出席			

- 事務局：黒部市都市創造部都市計画課：山本部長、小森課長、輿水班長、櫻田班長補佐、林主事、井田技師

(株)新日本コンサルタント：大門、植原、茂木

会議次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ（会長 大野黒部市長）
- 3 報告事項
 - (1) 経過報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 1
 - (2) 役員交代について・・・・・・・・・・・・・・・・資料 2
 - (3) 令和 2 年度公共交通利用者数（鉄道関係の更新）・・・・資料 3
 - (4) 路線バス事業の収支状況について・・・・・・・・資料 4
 - (5) 令和 3 年度路線バス動態調査の考え方について・・・・資料 5
 - (6) 令和 3 年度 6 月補正予算（公共交通分野）の概要について・・・・資料 6
 - (7) 公募委員の応募状況及び今後の考え方について・・・・資料 7
 - (8) バス停の上屋整備について・・・・・・・・資料 8
 - (9) 南北循環線等主要バス路線ワークショップについて・・・・資料 9
- 4 議案
 - (1) 生地循環線の「道の駅KOKOくろべ」乗り入れルートについて・・・・資料 10
- 5 その他
- 6 閉 会

開会

- 定刻通り開会し、委員の変更について、事務局が紹介を行った。
- 進行：小森課長

あいさつ（大野市長）

- 会長よりあいさつを行った。

本日は、第 34 回黒部市公共交通戦略推進協議会を開催したところ、委員各位においては、ご多用の中ご出席いただき感謝している。また、日頃より本市の公共交通の整備と運営にご理解・ご協力を賜り、心から感謝を申し上げる。

さて、オリンピック・パラリンピックの熱戦で、盛り上がりを見せた今年の夏だったが、一方で全国的に新型コロナウイルス感染が爆発的に拡大した夏でもあった。今回の爆発的拡大は、デルタ株をはじめとする感染力が強い変異株の出現によるもので、想定よりも早いスピードで感染が広がった。感染者が多い自治体では、病床が逼迫し、危機的状況となっていると報道されていた。県内においても、国の「まん延防止等重点措置」が初めて適用され、県のロードマップも警戒レベルが最も高い「ステージ 3」となるなど、危機感が高まり、地方の医療や経済に再び甚大な影響を与えた。現在は小康状態であるが、未だ予断の許さぬ状況が続いており、これから冬に近づくに連れ、新型コロナウイルスやインフルエンザウイル

スに感染しやすい状況となる。公共交通を担う方々においては、より一層の感染防止に留意し、市民の大切な足を確保して頂くよう、お願い申し上げる。

厳しい状況が続いているが、一方で明るい話題も入ってきている。昨年度にYKK株式会社が応募したE S T交通環境大賞において、選考の結果、最優秀の「国土交通大臣賞」を受賞され、本日、表彰式があると伺っている。これは企業の地域貢献の新しい形が高く評価されたものと考えている。本市としては、引き続き、各運行事業者のご尽力、公共交通の利用回復に向けた市民活動等に対し、積極的に協力していきたいと考えている。

最後に、本日の会議内容については、報告事項が9件、協議事項が1件となっている。報告事項の、「役員交代」、「路線バス事業の収支状況」、「南北循環線等主要バス路線ワークショップ」等について報告する。また、協議事項の、「生地循環線の「道の駅KOKOくろべ」乗り入れルート」について、皆様の忌憚のないご意見を賜りたく思う。

報告事項

- (1) 経過報告
- (2) 役員の交代について
- (3) 令和2年度公共交通利用者数（鉄道関係の更新）
- (4) 路線バス事業の収支状況について
- (5) 令和3年度路線バス動態調査の考え方について
- (6) 令和3年度6月補正予算（公共交通分野）の概要について
- (7) 公募委員の応募状況及び今後の考え方について
- (8) バス停の上屋整備について
- (9) 南北循環線等主要バス路線ワークショップについて

●事務局より、資料1、2に基づき、経過報告及び役員の交代に関する報告を行った。

○川端座長

新たに就任した漆間副会長より挨拶をしていただく。

○漆間副会長

この度、黒部市自治振興会連絡協議会の役員変更に伴い、本協議会の副会長に就任した。今後ともよろしく願いたい。

●事務局より、資料3～9に基づき、「路線バス事業の収支状況」、「南北循環線等主要バス路線ワークショップ」等について説明を行った。

○伊藤委員

資料5「バス動態調査の考え方について」に関して、今年度は新幹線生地線と生地循環線が調査対象となっており、11月の平日1日を調査日としているが、この調査日は各路線で別日なのか、同日なのか教えていただきたい。

○事務局

調査日については事業者と調整をしていくつもりではあるが、昨年度の動態調査は黒部宇奈月温泉の新幹線乗降調査と同日に実施した。そのため、今年度も交通事業者のコロナウイルスへの対応を見ながら調査日を確定させることになるかと思うが、新幹線乗降調査と同日に対象 2 路線の調査を実施する予定である。

○伊藤委員

この動態調査実施に関する告知は市の広報などで行う予定はあるのか。実施日の特定まではしないまでも、対象路線利用者のために事前に告知をしておいた方が良いかと思われる。因みにこれまでの動態調査はどうしていたのか。

○事務局

昨年度の調査では市報などでの告知はしていないが、各交通事業者やバスにて調査について 10 日程前から周知をしたうえで、当日の調査を実施した。今年度もバス車内やバス停等で利用者に周知をした上で調査を実施する予定である。

○伊藤委員

資料 8 の「バス停の上屋整備について」に関して、これはいつから工事が始まり、いつから供用が開始されるのか教えて頂けないか。

○事務局

この事業に関しては今年度の予算で進めるつもりであるが、工事開始については富山地方鉄道との協議や入札事務を経たうえでの実施となる。供用開始については、今年度予算の事業ということもありなるべく早い時期としたい。

○伊藤委員

上屋整備を行う正確な位置は把握していないが、工事期間中における、当該バス停の利用者の安全確保対策を教えていただきたい。もし、バス停の位置をずらすなどの対応を考えているのであれば、道路運送法上の手続きが必要になる。

○事務局

上屋の設置位置については富山地方鉄道と協議中であり、まだ確定していない。ただ、現在はバス停の付近にベンチが設置されており、電鉄黒部駅内にも待合室があるため、バス利用者はバスの発着に合わせてバス停まで移動していると推察される。この中で、上屋を設置するとなれば資料 8 の写真中の赤ボーダー線内が考えられる。その場合にバス停の位置を移動させるかどうかは協議中であるが、特に問題が無ければ上屋のみを設置しバス停の移動は必要ないと考えている。

○新庄委員

先ほどの報告にもあったが、当社の鉄道・バス事業の運営についてはコロナウイルスの影

響を大きく受けている。その中で、事業運営に関して皆様のご理解・ご支援をいただき、誠に感謝をしている。

報告事項に対する1つ目の意見は、コロナ禍による影響に対して我々民間事業者は、事業運営についてこれまで以上に踏み込んだ議論を行う必要があると考えているが、その中で、資料9のワークショップでは、当社からは30代半ばで、実務に携わり既存の型にとらわれないような考え方ができる社員を参加させている。このように、実務者同士の議論を行うことで、現在の課題に対するアイデアにつながるのではないかと考えている。ただ、今後のスケジュールを参照すると、法定協、作業部会、ワークショップの開催がそれぞれ年に3回となっている。参加者の都合や議題の進捗状況にもよるが、ワークショップはもう少し多めに開催した方が良いのではないかと考えているが、事務局としてのお考えをお聞かせいただきたい。

2つ目は、資料3「令和2年度公共交通利用者数について」に関してだが、どの路線も苦戦しているような報告が見られるなか、池尻線の利用者数状況は平成29年以降改善しているように見える。これについては何かしらの施策を実施しているのか、また、その施策は他の路線でも適用できるようなものなのか、教えていただきたい。

○事務局

1つ目のワークショップについては、スケジュール上では年3回と記載しているが、弾力的な議論を行うために設置要綱などは特に設けておらず、議論の進捗状況などを見ながら、必要であれば4回目以降の開催もあり得ると考えている。ただ、参加者の都合を考慮する必要があるため、一旦3回開催し、その中で概ねの方向性が定まれば、その結果を協議会へ報告する予定である。

2つ目の池尻線については、一言で申し上げると地域住民のバスに対する意識の向上が利用者数確保につながったのではないかと考えている。具体的には、以前に富山地方鉄道から池尻線の存続に関する協議の申し入れがあり、その際に地元説明を行った結果、住民の意識向上が図られた。その後は、小型車による平日毎日運行の実施により利用者数が改善していると思われる。また、利用者数の増加に伴い、頻度は多くないものの積み残しが発生しているため、中型車導入などの車両検討などについても、先ほど申し上げたワークショップで検討していく必要があると考えている。

○川端座長

前回の協議会で浅野委員から頂いた意見により、今回は路線バス事業の収支状況で収支率を記載しているが、この結果を見ると、やはりバス事業として厳しい状況になっていると思われる。そこで、伊藤委員に質問だが、コロナ禍によりこのような厳しい状況は全国的に見られているかと思うが、この状況に対して県外も含めた他地域での効果的な取組の事例についてお聞かせいただきたい。

○伊藤委員

今すぐ取組の事例を挙げることは難しい。ただ、先ほど事務局の報告にあったワークショップでは様々なアイデアが出ているが、実現できるか否かは運行事業者と協議する必要がある

る。そういったアイデアの実現に向けて、他地域での取組を参考にしていければよいと思う。

協議事項

(1) 生地循環線の「道の駅KOKOくろべ」乗り入れルートについて

- 事務局より、資料 10 に基づき「生地循環線の「道の駅KOKOくろべ」乗り入れルート」に関する説明を行った。

○新庄委員

当社では高速バスのような都市間を結ぶ運行もしているが、高速バスは地域交通以上にコロナ禍の影響を受けている状況にある。その状況下での新しい取組として、都市と都市を結ぶ運行から、県内の特定の施設に向けた運行に転向している事例が増えている。こういった事例を地域単位に落とし込んだのが「道の駅KOKOくろべ」への乗り入れだと考えている。ご年配の方は明らかな目的をもってバスを利用する機会が多いので、この乗り入れは良い取組だと思う。あとは、生地循環線が「道の駅KOKOくろべ」行きになったことをいかに周知するかが、重要になるかと思う。

○事務局

事務局としては、この乗り入れルートは中心市街地である三日市と道の駅KOKOくろべを結ぶことによる新たな需要も期待して進めていく。

○伊藤委員

本協議会では新設するバス停の位置と延伸ルートについて協議するということでよいか。

○事務局

その通りである。ただ、事業認可のためには運行ダイヤや運賃も決める必要があると存じているので、そういった点については富山地方鉄道と協議を進めた上で、然るべき時期に認可申請をお願いしたいと考えている。

○川端座長

現段階では、あいの風とやま鉄道黒部駅から道の駅KOKOくろべの間にはバス停は設置しないということによいか。

○事務局

その通りである。

○川端座長

他に意見がなければ、本日欠席している原田委員から事前に意見をいただいているので、事務局より紹介していただく。

○事務局

原田委員から本協議会の資料をご覧になったうえで頂いた 5 つの意見を紹介する。

「1 つ目は、路線バスの収支状況は大変厳しいものとなっているが、交通事業者一丸となって対応していただくことを望んでいる。2 つ目は、ワークショップの開催状況については前向きな議論が進められているようなので、今後の具体的な改善提案に期待している。3 つ目は、道の駅 K O K O ころべへの乗り入れについて、ルートは特に問題ないので、バス停の位置や設備ができるだけ利用しやすいものになることを望む。4 つ目は、E S T 交通環境大賞の国土交通大臣賞に「富山県黒部市における社員通勤変革への挑戦」と題して Y K K の取組が表彰されたことについて大変うれしく思う。5 つ目は動態調査については、起点・終点を明らかにすることは重要だと思うので、この調査結果をうまく活かしていただきたい。」

○川端座長

それでは、最後に本日の協議事項について承認をいただきたいと思う。承認をいただけるのであれば拍手をお願い申し上げます。

●出席している全委員から承認の拍手を頂いた。

○川端座長

全委員から承認を頂いたため、この内容で進めさせていただく。本件については交通事業者と最終的な協議を行い、運輸局へ申請をする流れとなっている。もし、次回の協議会の日程が申請日の後になる場合は、事前に書面協議にて皆さんにお諮りしていただきたく思う。

その他

○菅野委員

今回で 30 回目を迎えるくろワンきっぷだが、コロナ禍の影響で当初の予定から 1 ヶ月延期させ 10 月 23 日から 1 ヶ月間開催することとなった。県内の方はもちろん県外からお越しになられた方についても、機会があればどうかご利用していただきたい。本事業は 2007 年より実施しており苦戦もしているが、昨今のような状況だからこそ、通勤通学での利用者が確保できない土日祝日にも公共交通を利用していただき、観光路線としての活用も見出せていければよいと思う。その中で、市内の企業や商店街にも協力をいただいている状況なので、特に本日出席をされている委員の方々には、是非ともご利用していただきたい。

また、あいの風とやま鉄道黒部駅から下立駅までの黒部鉄道が開通してから来年で 100 周年となり、その翌年には下立駅から宇奈月温泉駅までの開通が 100 周年を迎える。2 か年に渡り、100 周年が続く。そのため、この機会に合わせて富山地方鉄道には P R や企画について考えていくので、黒部市にはそのバックアップをしていただきたいと思う。

閉会（漆間副会長）

●漆間副会長よりあいさつを行った。

本日は、長時間にわたりご協議いただき、感謝申し上げます。また、川端座長には、円滑な議事運営をいただき、感謝申し上げます。本日は 9 件の報告事項のほか、「生地循環線の「道

の駅KOKOくろべ」乗り入れルート」について、ご審議頂いた。依然として、コロナ禍の終息が見えない状況ではあるが、運行事業者の皆様には、引き続き新型コロナウイルスの感染防止対策の上、運転手の健康と利用者の安全にご留意頂くようお願い申し上げます。本日は、誠にありがたく思う。

以 上